

# 平成 2 7 年 滋 賀 県 の 労 働 災 害 発 生 状 況

平成 2 8 年 4 月  
滋 賀 労 働 局



## 労働災害件数は 3 年連続減少

～死亡災害は過去最少 第三次産業の労働災害件数ほぼ横ばい～

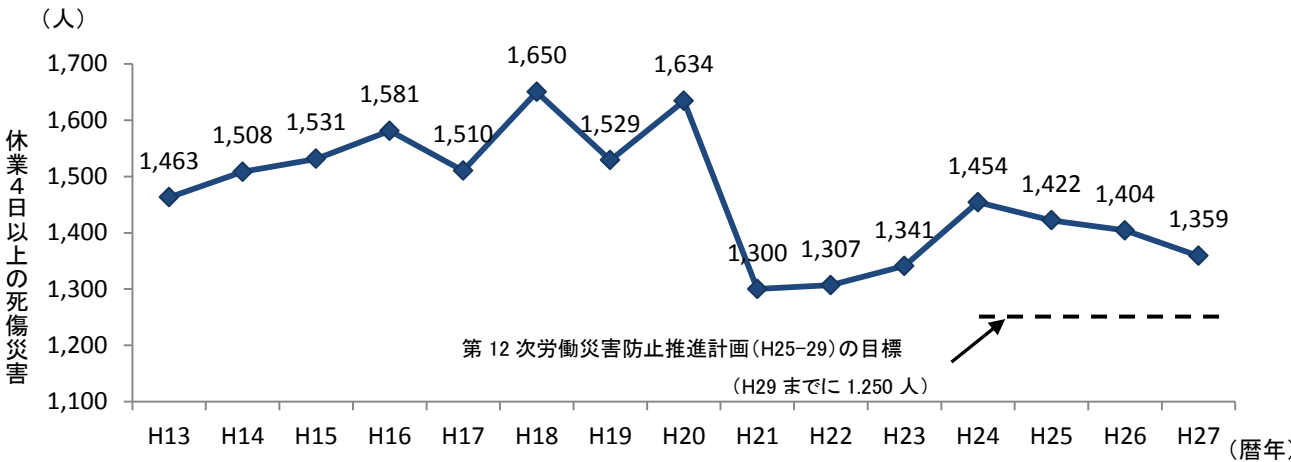
### 1 概況

#### ① 休業 4 日以上 の 死 傷 災 害 発 生 状 況

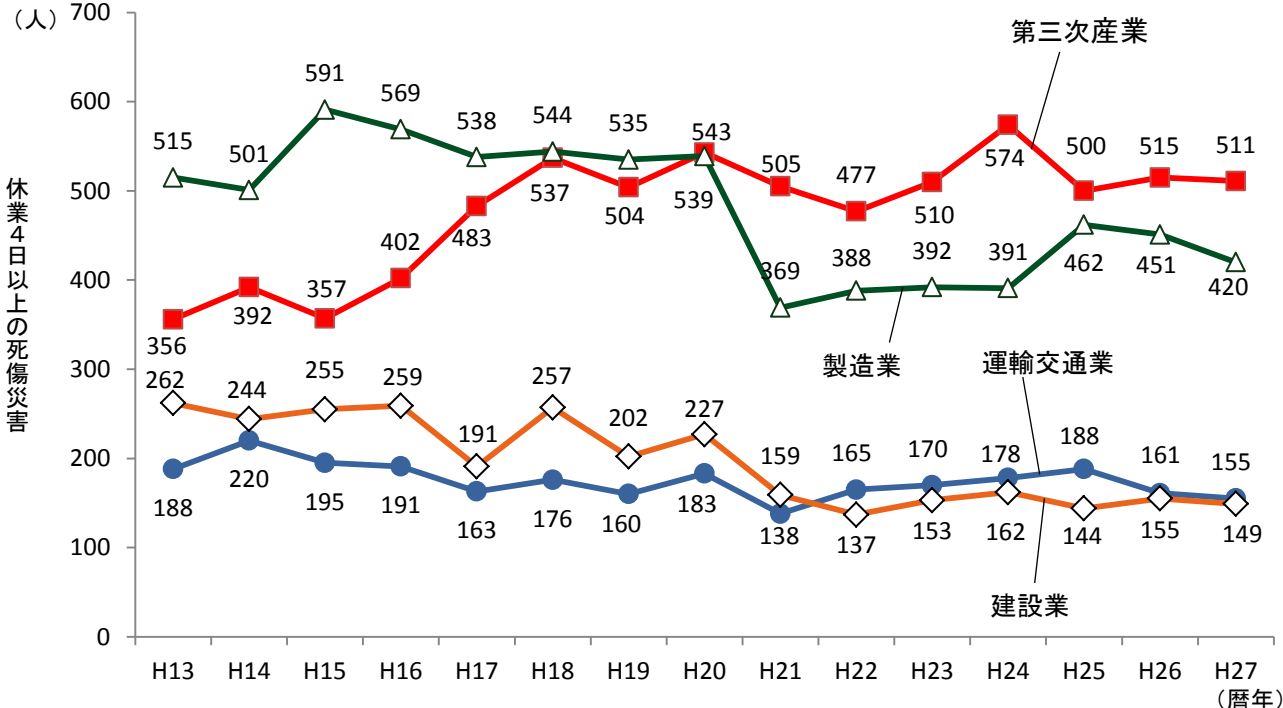
滋賀県内の労働災害による休業 4 日以上 の 死 傷 者 数 は、第 1 図 に 示 す よう に、平成 24 年 を 起 点 と して 3 年 連 続 で 減 少 し、平成 27 年 の 休 業 4 日 以 上 の 死 傷 者 数 は、全 産 業 で 1,359 人 と な り、前 年 に 比 べ 45 人 (-3.2%) の 減 少 と な っ た。な お、3 年 連 続 の 減 少 は 16 年 ぶ り。

業 種 ご と の 内 訳 で は、第 2 図 に 示 す よう に、第 三 次 産 業 が 511 人 (前 年 比 -0.8%) と わ ず か に 減 少 し た ほ か、製 造 業 が 420 人 (前 年 比 -6.9%)、運 輸 交 通 業 が 155 人 (前 年 比 -3.7%)、建 設 業 が 149 人 (前 年 比 -3.9%) と い づ れ も 減 少 し た。

<第 1 図> 休業 4 日以上 の 死 傷 者 数 の 推 移 (全 産 業、過 去 15 年 間)



<第 2 図> 休業 4 日以上 の 死 傷 者 数 の 推 移 (業 種 別、過 去 15 年 間)

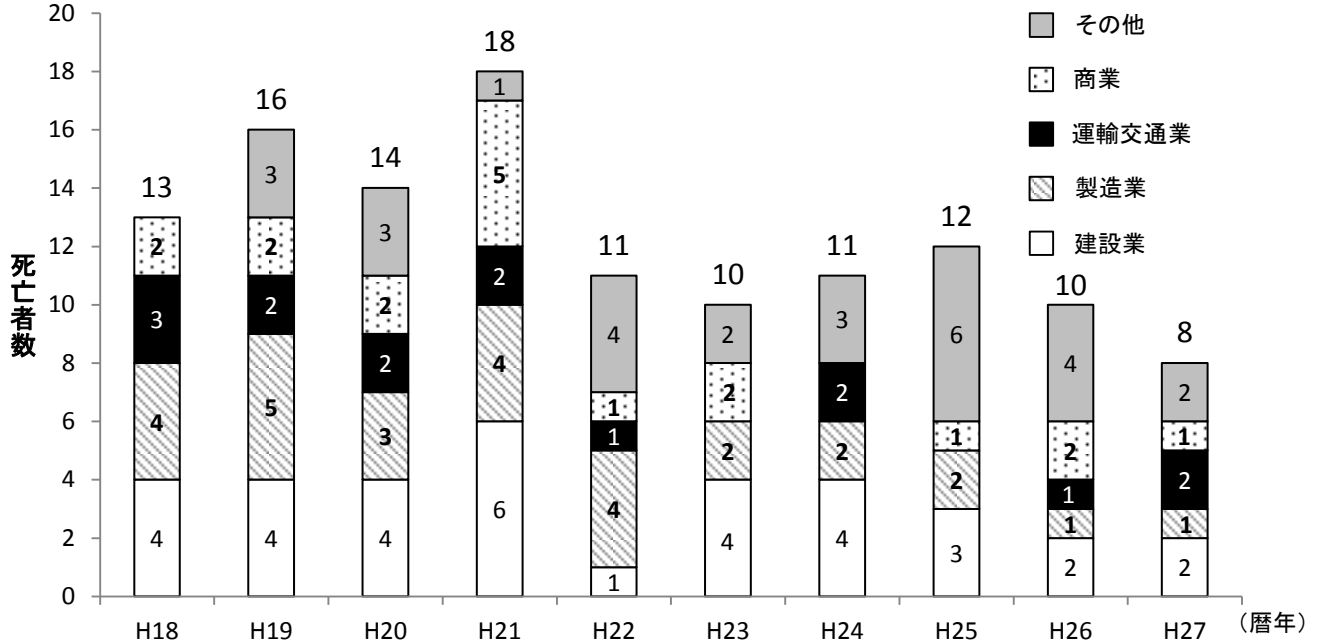


② 死亡災害発生状況

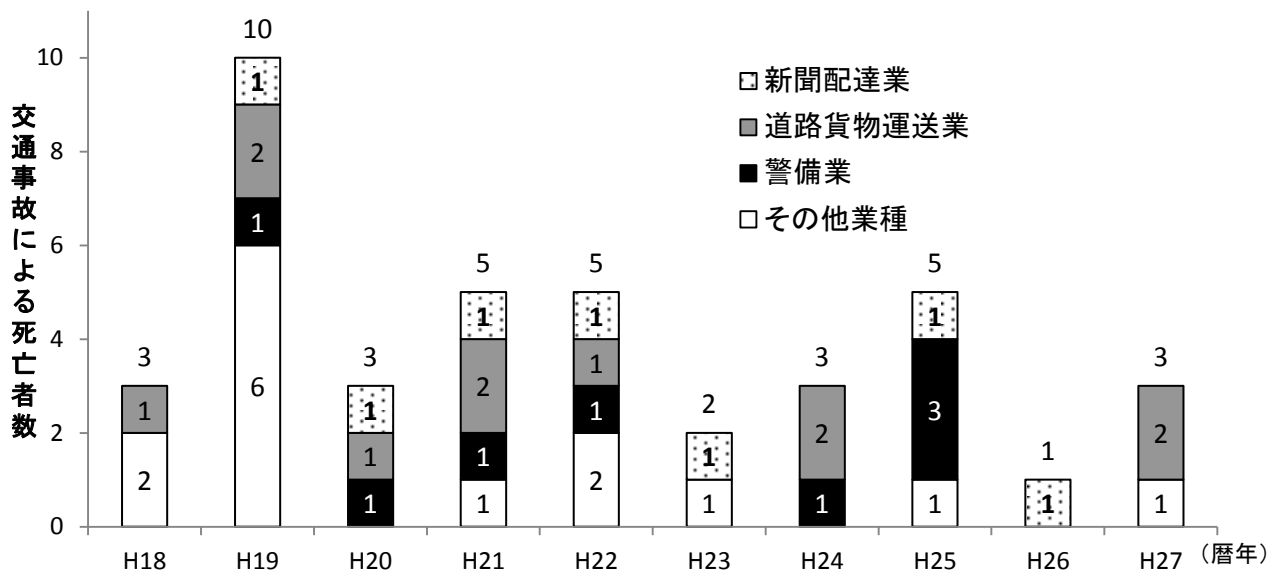
死亡災害は第3図に示すように、平成25年を起点として2年連続で減少し、平成27年の死亡者数は8人と過去最少となった。

交通事故による死亡者数は、第4図に示すように3人で、前年に比べ2人増加した。

<第3図> 死亡者数の推移（過去10年間）



<第4図> 交通事故による死亡者数の推移（過去10年間）

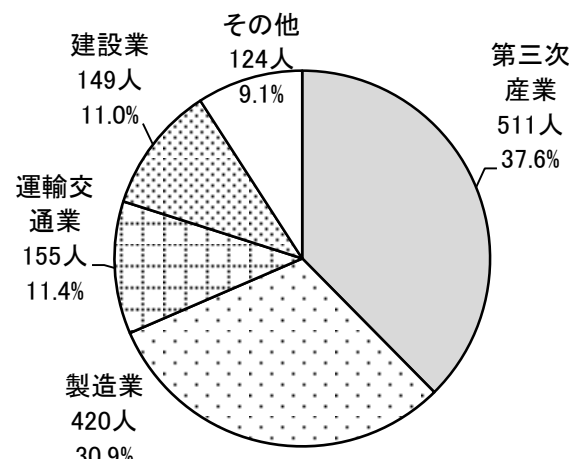


2 業種別の発生状況（平成27年）

① 休業4日以上死傷者数は、第5図に示すように第三次産業の占める割合が37.6%と最も高く、次いで製造業（30.9%）、運輸交通業（11.4%）、建設業（11.0%）の順になっている。

第三次産業の内訳は、511人中、商業（176人）、接客娯楽業（90人）、社会福祉施設（75人）、清掃業（57人）などである。

② 死亡者数は、第3図に示すように、建設業が2人、製造業が1人で、それぞれ前年と同数となり、運輸交通業が2人、商業が1人（物品賃貸業）、その他2人（飲食店1人、畜産業1人）であった。

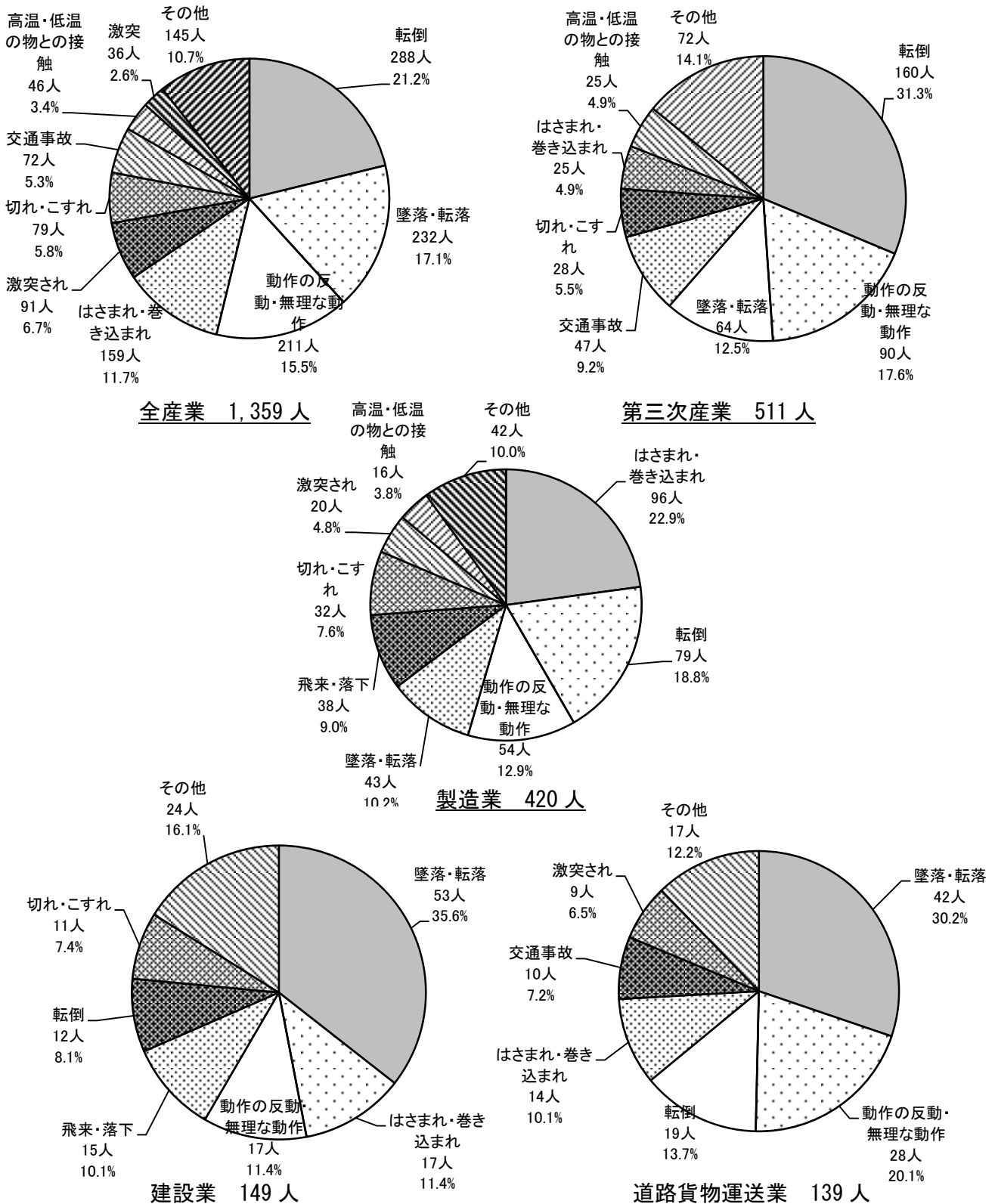


<第5図> 業種別死傷災害 全産業 1,359人

### 3 事故の型別の発生状況（平成27年）

- ① 全産業の死傷者数を事故の型別で見ると、第6図に示すように「転倒」が21.2%と最も多く、次いで「墜落・転落」が17.1%、「動作の反動・無理な動作」が15.5%の順で発生している。
- ② 事故の型別の死傷者数を業種別にみると、第三次産業では「転倒」が31.3%と最も多く、次いで「動作の反動・無理な動作」が17.6%、「墜落・転落」が12.5%の順で発生している。  
 製造業では「はさまれ・巻き込まれ」が22.9%（96人）と最も多いが、割合、人数ともに労働者死傷病報告の集計を始めた平成11年以降で最少となった。  
 建設業では「墜落・転落」が35.6%と最も多く、次いで「はさまれ・巻き込まれ」が11.4%、「動作の反動・無理な動作」が11.4%の順で発生している。  
 道路貨物運送業では「墜落・転落」が30.2%と最も多く、次いで「動作の反動・無理な動作」「転倒」の順に発生している。

＜第6図＞ 事故の型別死傷災害

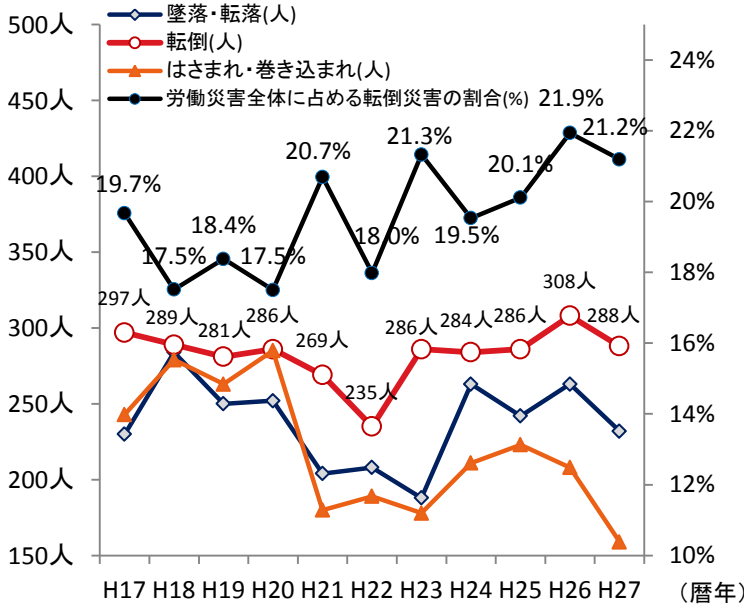


③ 死亡災害の事故の型別では、全数 8 人の内、「交通事故」が 3 人、「墜落・転落」が 2 人、「はさまれ・巻き込まれ」、「激突され」、「飛来・落下」、が 1 人ずつ発生している。

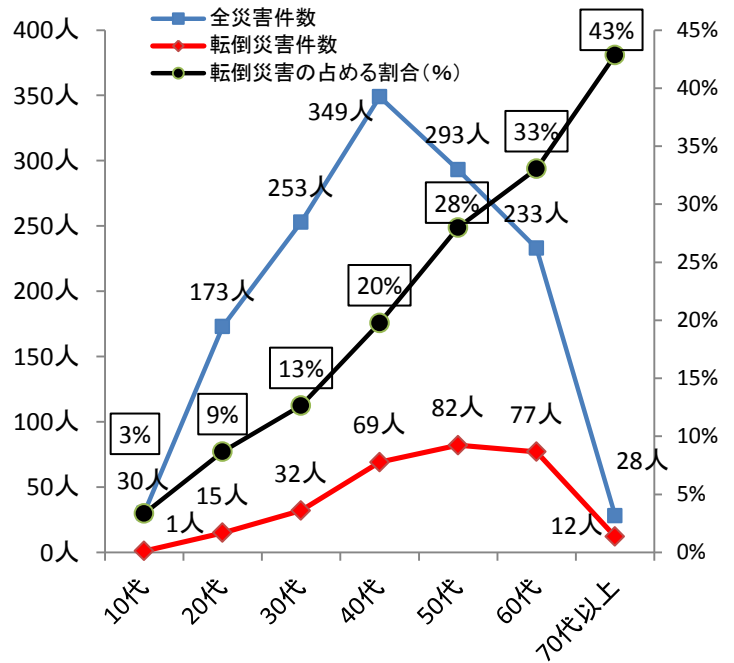
④ 転倒災害件数は、第 7 図に示すように 288 件となり、労働災害全体が減る中でも、就業者の高年齢化に伴い、依然として高止まりの状態となっている。労働災害全体に占める転倒災害の割合は、一貫して増加傾向であり、平成 27 年は 21.2%であった。

平成 27 年における転倒災害 288 件の年代別件数は、第 8 図に示すように、50 代が 82 人と最も多く、次いで 60 代が 77 人、40 代が 69 人となった。また、各年代の転倒災害の割合は、年齢を重ねるほど高くなる傾向にある。

<第 7 図> 転倒災害の件数と全体に占める割合



<第 8 図> 年代別災害件数と転倒災害の割合

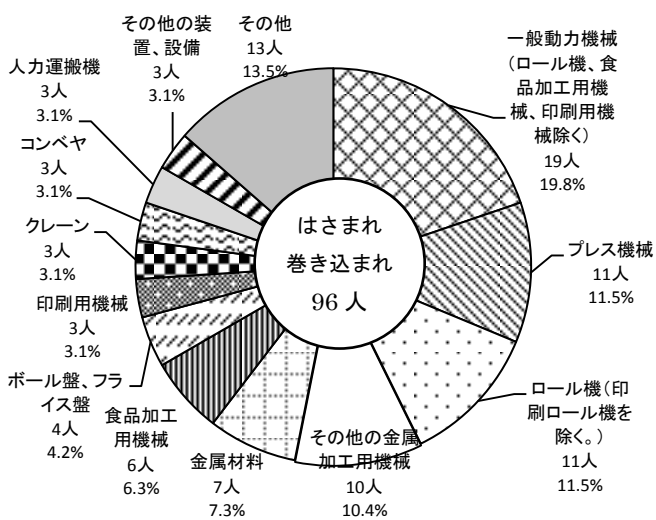


#### 4 起因物別の発生状況 (平成 27 年)

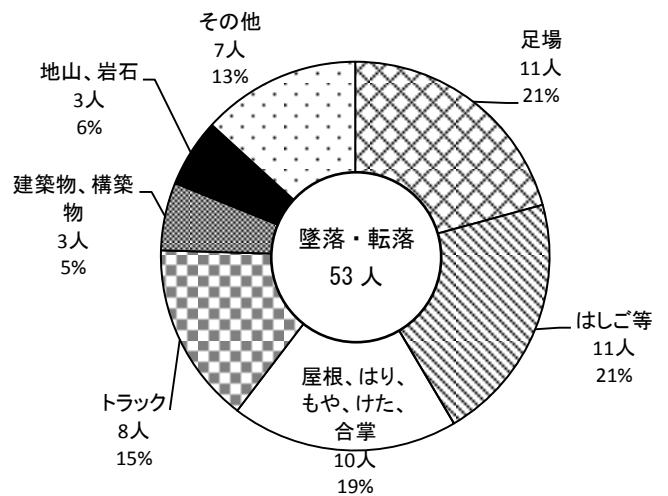
① 製造業で最も死傷者数の多い「はさまれ・巻き込まれ」96 人を起因物別でみると、第 9 図に示すように「一般動力機械」が最も多く 19.8%を占めている。

② 建設業で最も死傷者数の多い「墜落・転落」53 人を起因物別でみると、第 10 図に示すように「足場」と「はしご等」が同数で最も多く、それぞれ 21%を占めている。

<第 9 図> 製造業における、「はさまれ・巻き込まれ」災害の起因物別内訳



<第 10 図> 建設業における「墜落・転落災害」の起因物別内訳



\* 休業 4 日以上死傷災害は「労働者死傷病報告」、死亡災害は「死亡災害報告」による。